



2019年度決算報告

(東証第1部：8544)

2020年6月

確かな“きずな”を、未来へ。
株式会社京葉銀行

目次

・ 2020年3月期決算概要（単体）	2
・ 資金利益	3
・ 貸出金・預金	4
・ 有価証券運用	5
・ 役務取引等利益	6
・ 与信費用	7
・ 経費・自己資本	8
・ 資本政策	9
・ 2021年3月期計画（単体）	10
・ 新型コロナウイルス感染症への対応状況①	11
・ 新型コロナウイルス感染症への対応状況②	12

2020年3月期決算概要（単体）

（億円）

	19/3		20/3	
		対18/3		対19/3
1 業務粗利益	541	△17	540	△1
2 資金利益	478	△9	471	△7
3 役務取引等利益	69	4	58	△10
4 その他業務利益	△5	△13	11	17
5 うち国債等債券損益	△11	△13	6	18
6 経費	367	△7	362	△4
7 実質業務純益	174	△9	177	3
8 コア業務純益	185	3	171	△14
9 除く投資信託解約損益	185	3	163	△21
10 一般貸倒引当金繰入額	9	6	30	21
11 業務純益	164	△15	146	△17
12 臨時損益	△11	△4	△68	△57
13 うち不良債権処理額	48	39	109	60
14 うち株式等関係損益	51	29	57	5
15 経常利益	153	△20	78	△75
16 特別損益	△2	△0	△0	1
17 当期純利益	105	△15	55	△50
18 実質与信関連費用	58	45	139	81

業務粗利益・コア業務純益

- 業務粗利益は、1億円減少し540億円。
- 資金利益は、貸出金利息や有価証券利息配当金の減少等により7億円減少し471億円。
- 役務取引等利益は、金融商品販売手数料の減少等により10億円減少し58億円。
- その他業務利益は、国債等債券売却益の増加等により17億円増加し11億円。
- 経費は、物件費の減少等により4億円減少し362億円。
- 実質業務純益は、3億円増加し177億円。
- コア業務純益は、14億円減少し171億円。

経常利益・当期純利益

- 実質与信関連費用は、個別貸倒引当金繰入額の増加等により81億円増加し139億円。
- 経常利益は、75億円減少し78億円。
- 当期純利益は、50億円減少し55億円。

資金利益

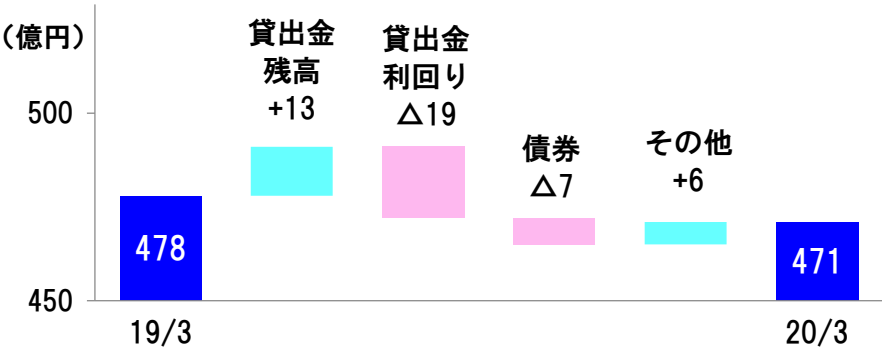
■貸出金残高の増加が続くも、貸出金利回りが低下

資金利益

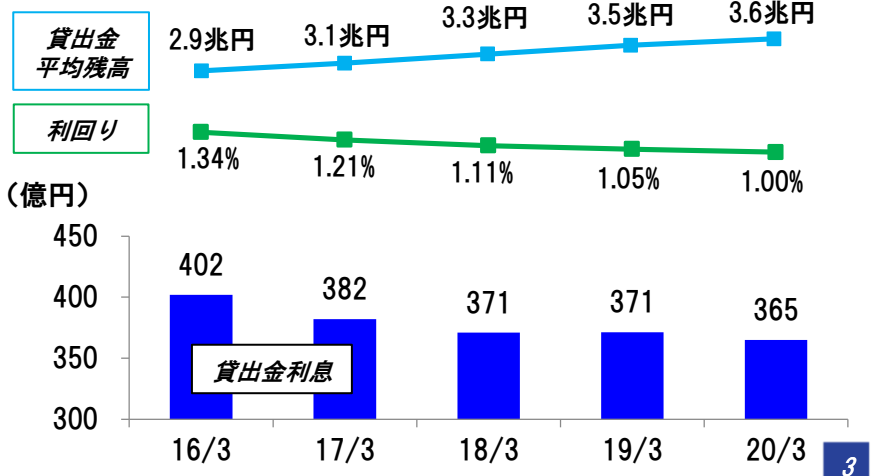
(億円)

増減要因

	19/3		20/3	
		対18/3		対19/3
1 資金運用収益	486	△9	478	△8
2 貸出金利息	371	0	365	△6
3 有価証券利息配当金	109	△10	107	△1
4 (債券)	(81)	(△7)	(73)	(△7)
5 (株式)	(20)	(0)	(20)	(0)
6 (投信・外国証券)	(7)	(△2)	(12)	(5)
7 預け金利息	4	△0	4	△0
8 資金調達費用	8	△0	7	△0
9 預金等利息	5	△0	4	△0
10 債券貸借等支払利息	3	0	3	0
11 資金利益	478	△9	471	△7



貸出金利息

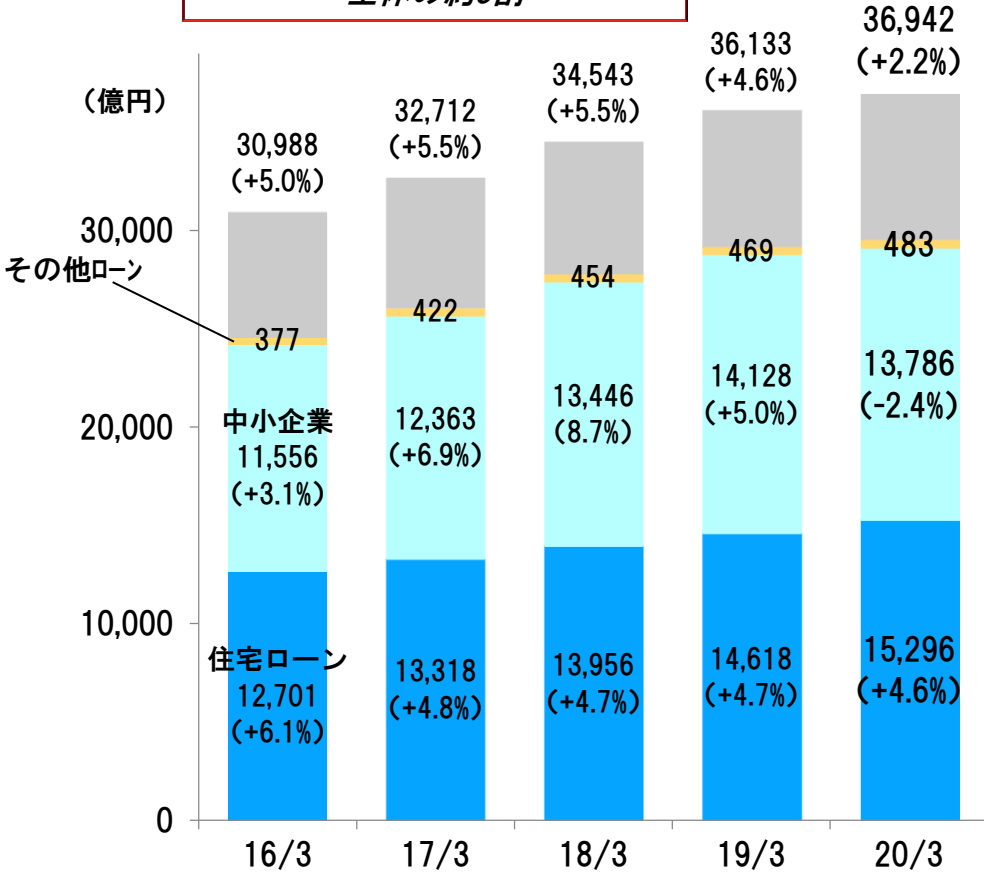


貸出金・預金

■貸出金・預金ともにバランスよく増加

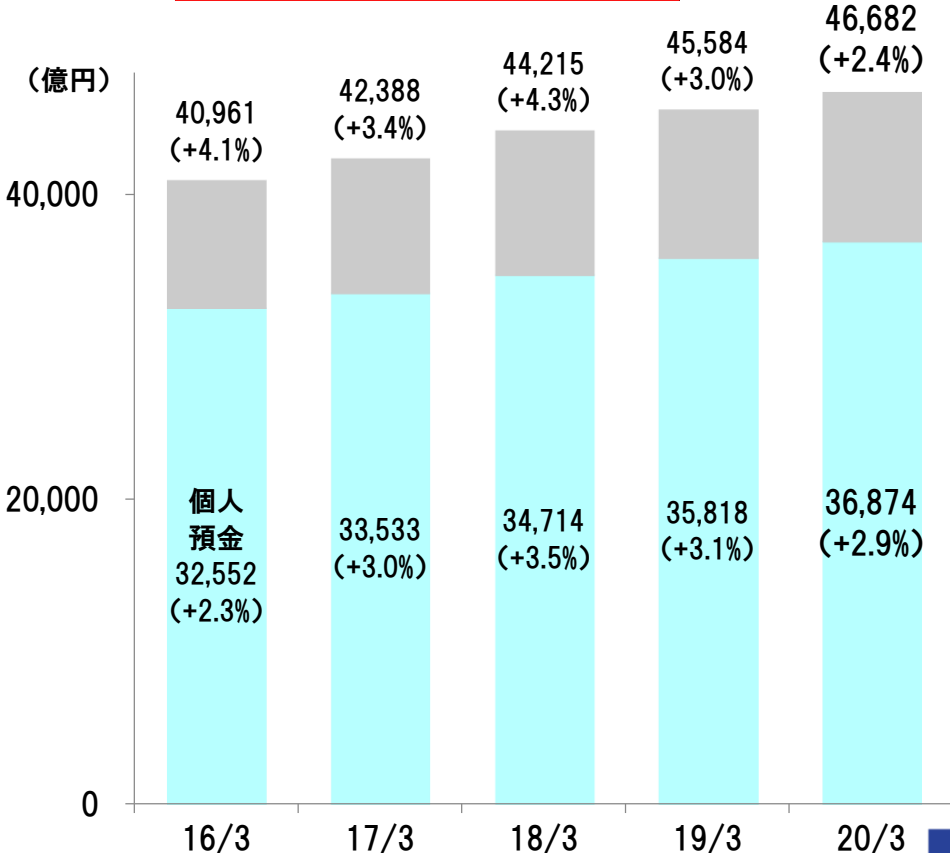
貸出残高

中小企業向け・個人向け
全体の約8割



預金残高

個人預金
全体の約8割



※ () 内は対前期増加率

有価証券運用

機動的な銘柄の入れ替えを実施

有価証券残高

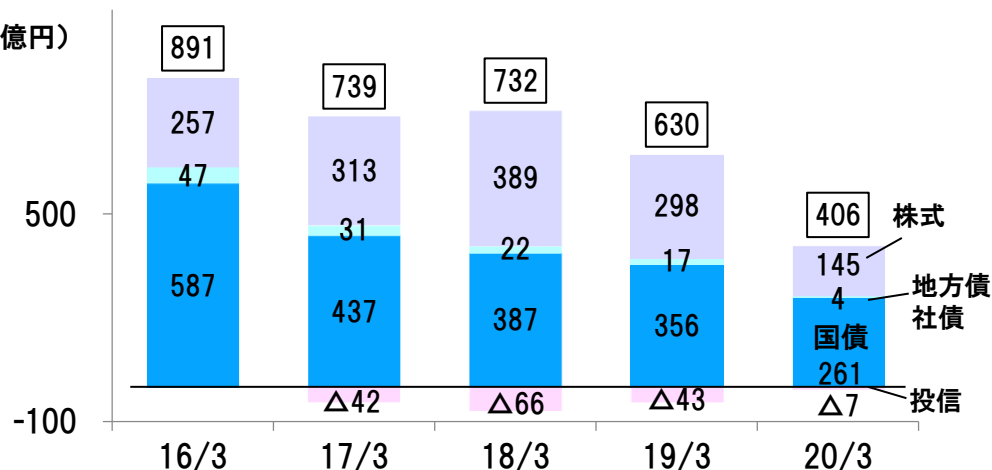
(億円)

	19/3	20/3	対19/3
1 有価証券残高	8,389	9,033	643
2 国債	5,769	5,572	△196
3 地方債・社債	780	1,517	736
4 株式	494	516	21
5 外債	441	535	94
6 投資信託	900	882	△17

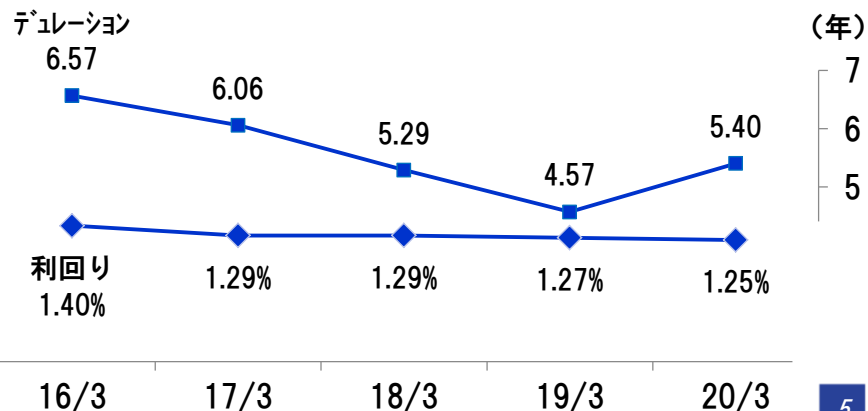
※償却原価ベース

有価証券評価損益

(億円)



有価証券利回りと円貨デュレーション



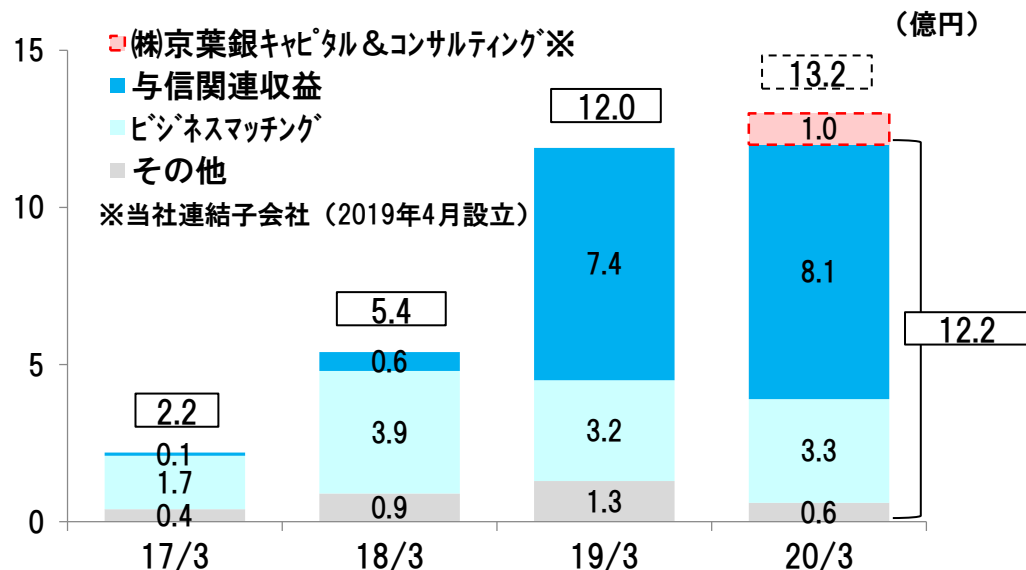
役務取引等利益

■金融商品手数料は減少もソリューション関連収益は増加

役務取引等利益

		(億円)		
		19/3	20/3	対19/3
1	役務取引等収益	108	102	△6
2	受入為替手数料	23	23	△0
3	ソリューション関連収益	12	12	0
4	金融商品手数料	32	23	△9
5	その他受入手数料	39	43	3
6	役務取引等費用	39	43	4
7	支払為替手数料	5	5	△0
8	団信保険料	20	25	4
9	その他支払手数料	13	13	0
10	役務取引等利益	69	58	△10

ソリューション関連収益の内訳



金融商品手数料の内訳

		(億円)		
		19/3	20/3	対19/3
1	金融商品手数料	32	23	△9
2	保 險	16	10	△6
3	投信（販売）	9	5	△3
4	投信（代行）	6	6	△0

与信費用

■ 予防的引当やコロナウイルスの影響により与信費用増加

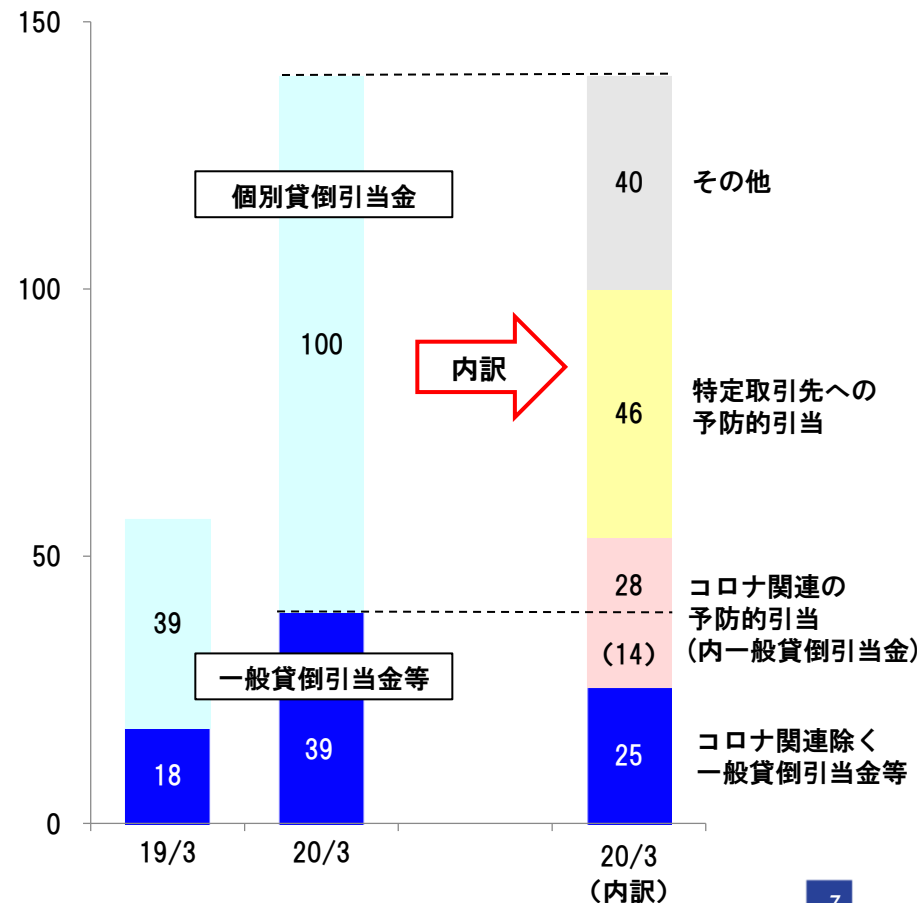
与信費用

(億円)

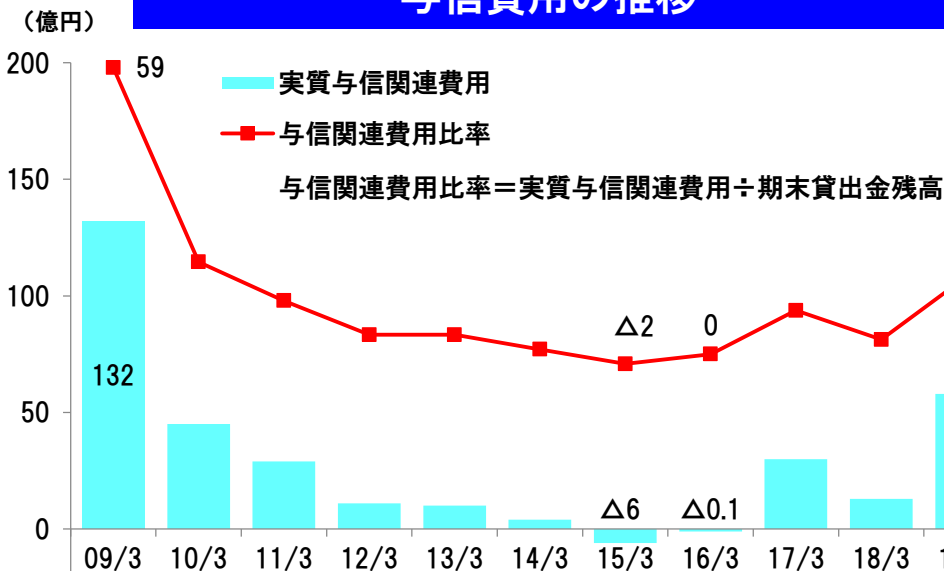
	19/3	20/3	対19/3
1 実質与信関連費用	58	139	81
2 一般貸倒引当金	9	30	21
3 個別貸倒引当金	39	100	60
4 その他	8	8	△0
5 開示債権比率	1.16%	1.26%	0.09%

与信費用の増加要因

(億円)



与信費用の推移



経費・自己資本

■経費減少、自己資本比率は高水準で推移

経費

(億円)

		19/3	20/3	対19/3
1	経費	367	362	△4
2	人件費	174	175	1
3	物件費	166	159	△7
4	税金	26	27	0
5	OH R	66.44%	67.94%	1.50%

自己資本

<国内基準・単体>

(億円)

		19/3	20/3	対19/3
1	コア資本に係る基礎項目	2,570	2,615	44
2	コア資本に係る調整項目(△)	40	53	12
3	自己資本	2,529	2,562	32
4	リスク・アセット等	23,458	23,605	147
5	自己資本比率	10.78%	10.85%	0.07%
6	ROE (当期純利益ベース)	3.61%	1.92%	△1.68%
7	ROA (当期純利益ベース)	0.20%	0.10%	△0.10%

資本政策

■ステークホルダーへ還元しつつ、健全性を維持

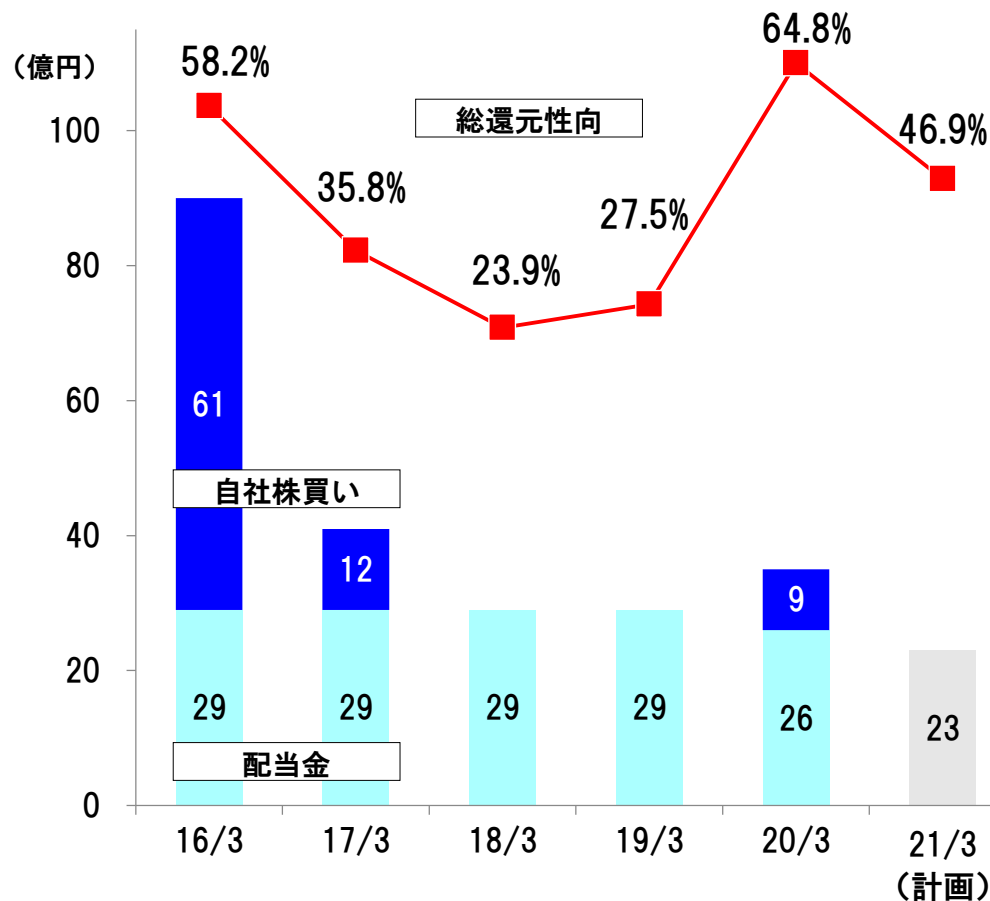
資本政策の基本方針

銀行業の公共性に鑑み、健全経営と内部留保の充実に努めるとともに、ステークホルダーへの適切な利益配分を実施

	19/3	20/3	21/3 (計画)
1株当たり配当金	22.00円	20.00円	18.00円
配当性向	27.5%	47.4%	46.9%

※2020年3月期末配当金については1株当たり11円を予定しておりましたが、与信関連費用が想定を上回ったこと等により、1株当たり9円とさせていただきました。

株主還元額と総還元性向

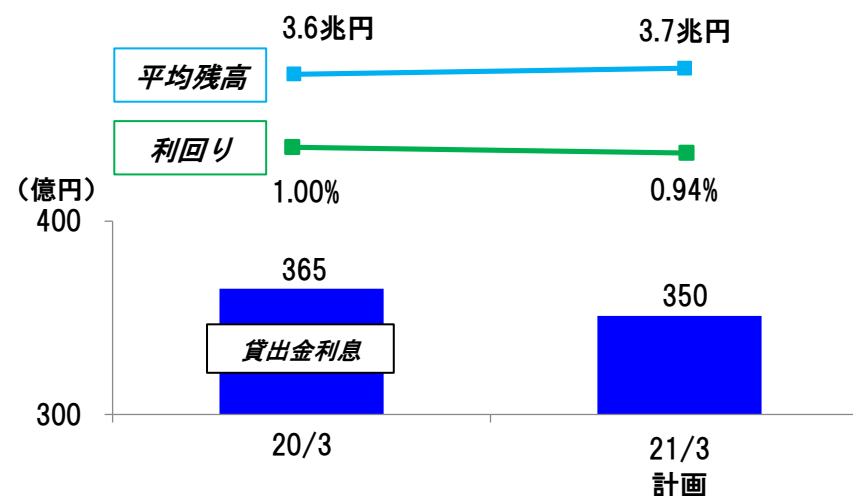


2021年3月期計画（単体）

（億円）

	20/3		21/3計画	
		対19/3		対20/3
1 業務粗利益	540	△1	517	△23
2 資金利益	471	△7	449	△22
3 役員取引等利益	58	△10	58	0
4 その他業務利益	11	17	10	△1
5 うち国債等債券損益	6	18	5	△1
6 経費	362	△4	362	0
7 実質業務純益	177	3	153	△24
8 コア業務純益	171	△14	148	△23
9 除く投資信託解約損益	163	△21	148	△15
10 一般貸倒引当金繰入額	30	21	4	△26
11 業務純益	146	△17	149	3
12 臨時損益	△68	△57	△73	△5
13 うち不良債権処理額	109	60	66	△43
14 うち株式関係損益	57	5	15	△42
15 経常利益	78	△75	75	△2
16 特別損益	△0	1	△2	△2
17 当期純利益	55	△50	50	△5
18 実質与信関連費用	139	81	70	△69

貸出金の想定



2021年3月期計画見通し・中期経営計画について

■経常利益は、2億円減少の75億円
 当期純利益は、5億円減少の50億円を計画。

※左記計画は国内外の経済活動が正常化し、第2四半期以降は通常の業務運営が可能となることを前提としております。

※先行き不透明な状況が当面続くと見込まれていることもあり、第18次中期経営計画の最終年度で設定した利益目標については達成が難しい見通しです。当面は金融インフラの維持と、お客さまへのサービス提供の継続に最大限努めるとともに、2021年度以降の次期中期経営計画に向けた取り組みを進めてまいります。

新型コロナウイルス感染症への対応状況①

■お客さまと職員の安全を確保しながら、金融インフラを維持

安全性の確保と業務の継続

本部

- スプリットオペレーション（建屋・フロア分散）
- テレワーク、時差出勤の実施
- テレビ会議、電話会議の開催
- セミナー開催の自粛

営業店

- 交替制勤務による業務の継続（全営業店・ローンプラザ）
- 昼休み制の導入（全営業店）
- 飛沫感染防止へアクリル板やビニールカーテンの設置
- 積極的な営業活動の自粛

融資相談窓口の設置

- 融資相談窓口の設置
- 融資専用ダイヤルの設置
- GW中の休日相談窓口設置

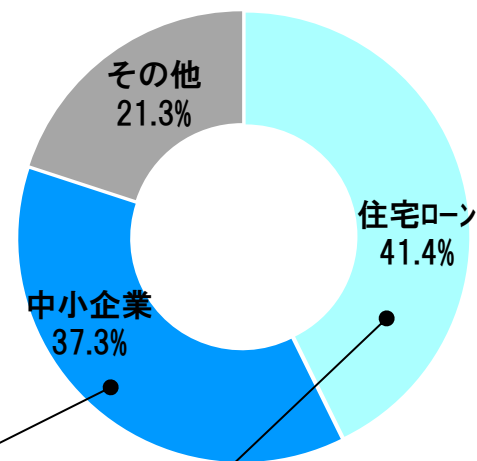
お客さまサポートの充実

- 融資条件変更手数料の免除
- 特別支援融資制度の創設
- 雇用助成調整金のオンライン相談会の実施

- 個人ローン返済チームの新設

貸出金の内訳

（2020年3月末）

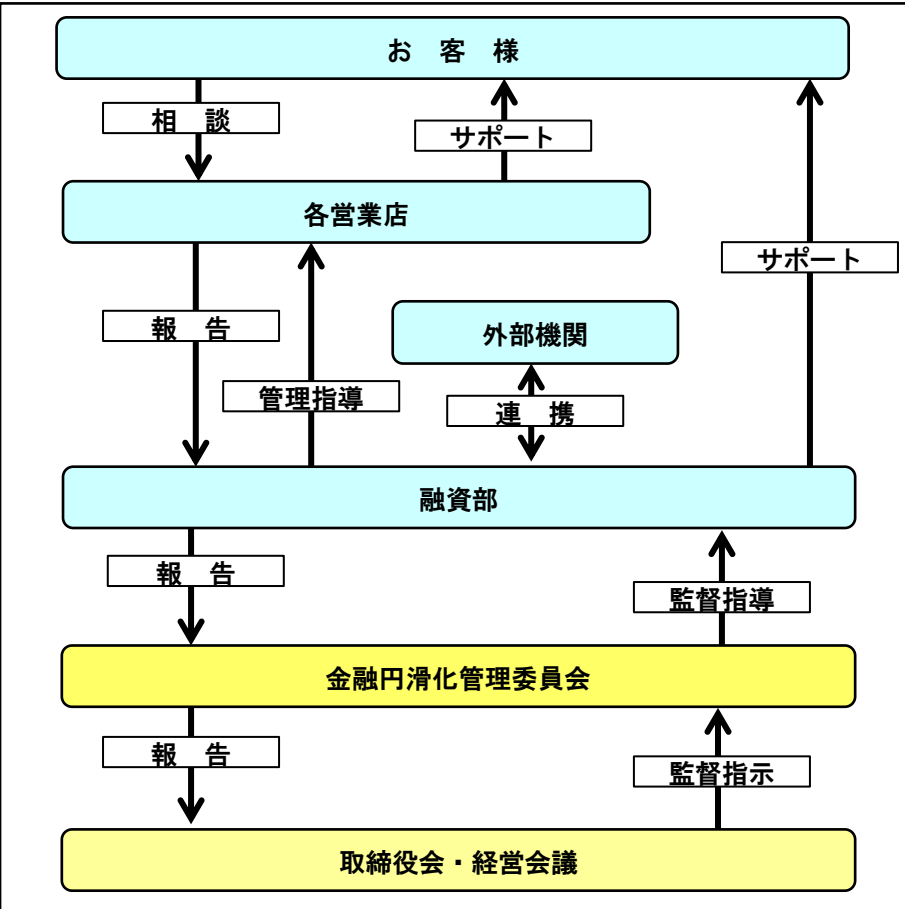


新型コロナウイルス感染症への対応状況②

■地域金融機関として、迅速・柔軟な資金繰り支援

迅速・柔軟な資金繰り支援

金融円滑化管理態勢



新型コロナウイルス関連融資状況

(2020年5月末現在)

	事業性融資		住宅ローン
相談件数	4,195件	4,023件	172件
新規融資相談	申込	3,744件	
	実行	3,162件	1,088億円
		1,773件	555億円
条件変更相談	279件		172件

京葉銀行のコミュニケーションシンボル



「**A**」の文字が描く重なりと上方へ伸びてゆくラインは、人と人との“きずな”と、そこを出発点に無限に伸びてゆく未来をあらわしています。

コミュニケーションネームの「アルファバンク」は、“人とのきずなを大切に、無限の未来を切り開いてゆきたい”
“常に皆さまにプラスアルファを提供し続ける銀行でありたい”
そんな京葉銀行の思いをあらわしています。

確かな“きずな”を、未来へ。

<本資料に関する照会先>

株式会社 京葉銀行 経営企画部

TEL：043-306-8061

本資料には将来の業績に関わる記述が含まれていますが、こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。また、本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券を推奨するものではありません。